

週日の説教

金 大烈 神父 2009年8月26日(水)

《一番大事な事は私達の心》

おはようございます。

この世の中で、生きている人のなかで心配のない人がいるのでしょうか。私には心配が全然ありませんと言う方がいらっしゃるのでしょうか。心配はありますよね。心配しながらも私達はお互いに心配するなと言います。心配は多分生きている限りあると思います。ただ心配があるかどうかの問題ではなくて、心配がある時に、私達は無意識的に、どのような心でその心配を受け入れようか、解決しようかと考えます。その時のその心の持ち方が大事だと思います。どのような心を持っていらっしゃるのでしょうか。心配があった場合どうします？ お風呂に入ります？ 寝ます？ 祈ります？ 私は心配があった時、無意識的に祈りから始めますと言う方は？（多くの人が手を上げる）

そうです。本当にそうです。カトリック信者でイエス様を信じている私達と、そうではない人の基本的な差は、何かあった時に、祈りから始めるかどうかによって全然違います。やはり私も信者でなかったらイエス様を知らなかったら、何か心配があったら、何とかして人間的な力によって解決しようと動くと思います。しかし私達はまず祈ります。そして神様から与えられた自分の人間的な能力を全部発揮して解決しようと頑張ります。もし祈りばかりで行動が無かったら、それも変です。共にしなければならない事を意識しましょう。

さあ、福音に（マタイ 23・27-32）入ってみましょう。善人になるのは物凄く難しいですよ。良い者に成るのは本当に難しいものです。しかし悪人になるのは、偽善者になるのは物凄く簡単な事だと思います。例えば、今日イエス様のどんな比喻があったのでしょうか。『白く塗った墓のように・・・』皆様、日本の墓は納骨する場所だけの感覚しか無いかも知れませんが、イスラエルは大体遺体を埋めます。そして外をきれいに飾ります。中には棺を置いて、外はどの国でもきれいに飾ります。イスラエル人は白い色で、その墓地の外をきれいにします。ですから、誰が見ても、挨拶しに来る人や墓参りに来る人達が、全然違和感を持たないようにすごくきれいに飾ります。韓国も芝できれいに飾ります。大体遺体を埋める、埋葬する文化の国はほとんど外をきれいに飾ります。そのまま置かないです。その時、その中は簡単に言いますと【腐っている】。ですから、イエス様がおっしゃったのは外側がきれいに見えても、中が腐っているとそれは何も無い事であると、はっきりおっしゃったのです。そのような者達が、ファリサイ派であり律法学者だと、イエス様がおっしゃいました。結局、中が腐るのは簡単です。憎しみがあれば心は腐ります。欲心が多すぎたら腐ります。バランスを取れなかったら必ず腐ります。

今日の福音を通して、それはファリサイ派や律法学者の様な限られた人々にイエス様が言う話だと思わないで下さい。いつでも私達は、『白く塗った墓のような』者になる可能性がある事を意識しましょう。良い事をしてその心が不便だったらそれは腐ります。ですから今日の福音をもう一度考えてみましょう。何よりも私達にとって一番大切な事は“心”である事。“心”をもっと豊かにする為に私はどのように頑張れば良いか意識しましょう。

皆様、全ての事を手に入れても、結局“心”が丈夫でなかったら、それは何も無い事になってしまう事。そして、もっと悪くなってしまう事を意識しながら、いつも自分の“心”に対して大事な気持ちで何よりも主の平安を保とうとする努力をしましょう。

ありがとうございました。